

タイトル 講評

助言者 横浜翠嵐高等学校長 師岡 健一

市ケ尾高校の皆さん、川和高校の皆さん提案校としての発表、ありがとうございました。非常に熱意のある、そしてエネルギッシュな動感を交えた発表だったと思います。

横浜北地区には、様々な特色やミッションを持っている学校がありますが、今日発表していただいた市ケ尾高校と川和高校は、どちらも非常に部活動が盛んで文武両道を特色としている学校だと感じています。

まず、市ケ尾高校ですが、タイトルとして「持続的発展可能なP T A活動の取り組み」、ということで発表していただきました。この内容は、どの学校のP T Aにとっても共通のテーマであり、いかに持続させていくか、また、その中で発展させていくか、そのためにどんな取り組みをしたらいいのか、ということについて、様々なヒントを与えてもらえました。

イメージアップのロゴマークや、それぞれの委員会のネーミングなど、心理的なハードルを下げるために親しみやすいネーミングをつけていくことは、非常に興味深い取り組みです。また、コロナ禍で止まっていた親父の会が昨年度から復活して、行事での2,400食の豚汁提供に果敢にチャレンジしていることも紹介されましたが、P D C Aをしっかり回しながら、次につなげていく取り組みも素晴らしいと思いました。

こういった活動を持続可能にするために、見える化をどんどん進めていくという話がありました。3年間で活動が終わってしまう方もいる中で、いかに次の代の人にスムーズに引き継いでいくのか、そのための様々な取り組みを行っているということで、大変わかりやすかったと思います。ぜひ他の学校のP T Aの方も参考にさせていただきたいと思います。

次に川和高校ですが、川和高校の発表は「背中の会」、つまり「親父の会」の視点からという

ところでの発表で、一味違った発表になっていたと思います。これだけ多くの方が学校、生徒を支えてくれているということが大きなことだと思います。「ボックス」の皆さんの演奏も有難うございました。

今学校現場というのは働き方改革が進んでいます。ただ、働き方改革といっても勤務時間の縮減というだけではなくて、働きやすさと働き甲斐の両立が、とても大事だと言われている、皆様もウェルビーイングという言葉が最近よく聞くことがあると思いますが、心身の健康と幸福感というようなことと関係ある言葉であり、P T Aの活動も同じで、P T Aの活動に参加している皆さんが、活動のしやすい状態、そして、活動する楽しさや活動するやりがいがある、それがとても大事なことだと思います。

今日の市ケ尾高校と川和高校の発表からは、それが本当によく伝わってきていて、参加している皆さんが本当に楽しんでやっていると感じました。皆さん方が楽しんでやっていることが、生徒のためになること、それを目指してどの学校でも多くの方がP T A活動を行っているのではないかと思います。

ぜひ今日の2校の発表の中で、それぞれの学校の特色や状況というものは違いますが、こういうところは取入れられるかな、こんなところはちょっと面白いかな、というヒントが得られたら大変良いことであると思います。

改めまして、市ケ尾高校と川和高校の皆様、本日は発表ありがとうございました。